

久留米大学を受診した患者さんへ

「胆管空腸吻合部狭窄および膵管空腸吻合部狭窄に対するバルーン内視鏡治療後の長期臨床成績を検討する多施設共同後方視研究」の研究に使用する情報について

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の情報を使用します。

- 1) 期間：2009年9月から2014年12月
- 2) 受診科：消化器内科 または 複数科にわたるもの
- 3) 対象疾患名：術後の胆管空腸吻合部狭窄および膵管空腸吻合部狭窄に対してバルーン内視鏡を用いて治療を行った症例
- 4) 使用する情報：診療情報、等

あなたの試料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承くださいませよう、お願い申し上げます。

- 1) 研究組織（当院）：所属：内科学講座 消化器内科部門
 研究代表者：講師 岡部義信
 研究分担者：助教 石田祐介、助教 牛島知之、助教 佐々木優
 助教 安元真希子、助教 倉岡圭、助教 深堀理、
 助教 阪上尊彦
- 2) 研究の意義と目的：本研究により、バルーン内視鏡治療による術後吻合部狭窄に対する治療の現状と問題点を明確にすることで、より有効な治療法を選択していくことが可能となると考えています。
- 3) 研究の方法：各研究参加施設において、吻合部狭窄に対するBAE治療後6ヶ月以上経過した症例を対象として、期間中の再燃率を検討します。
- 4) 研究期間：2015年11月の倫理委員会承認後、2009年9月から2014年12月の症例を対象とする。
- 5) 上記の試料（情報）の使用を選定した理由：術後吻合部狭窄に対するバルーン内視鏡治療の効果をみるため選定いたしました。
- 6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：研究実施に係る生データ類を取扱う際は、被験者の個人情報保護に十分配慮します。研究の結果を公表する際は、被験者を特定できる情報を含まないようにしております。
- 7) 研究成果の発表の方法：本研究により得られた結果は、研究終了後、総括報告書として病院長に提出し、同時に学会や論文等により公表する予定です。また、研究責任者と共同研究者によって国内外の学会や論文において発表する予定です。
- 8) 利益相反：本研究は特定企業からの資金援助はありません

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

（代表者氏名）久留米大学内科学講座消化器内科部門、講師 岡部義信

（住所）福岡県久留米市旭町 67

（TEL）0942-35-3311（内線：3714）